

生徒が主体的に思考する授業や課題を模索

勤務校では、自ら考え、意見を出すために必要な基礎知識が不足している生徒が増えている。そのような知識を身に付けるための地道な努力を嫌う生徒も多く、基礎力の定着が出来ていないと教師間で話している。課題を与え、反復練習で定着させる旧来の方法では、限界にきているのかもしれない。生徒が主体的に考えられない課題では、基礎力の定着もおぼつかない。12月号の特集・座談会にあった「異なる思考レベルを重層的に体験できる」という発想が、改善のヒントになりそうだ。

「千葉県・匿名希望」

高校での学びがグローバル社会で生きる力に

12月号特集の茨城県立竹園高校の実践は大変参考になった。生徒の「学び」を活用できる力を育成し、「学び」がこれからのグローバル社会で生きる力になると生徒に伝えていることに共感した。教科を問わず、これからの学習指導のあり方の指針となる取り組みであった。また、熊本県立済々黌高校の事例では「先生方の発言には矛盾がある」「ただ、10代の僕らには、理不尽さを体験することも必要だから受け入れようと思います」という生徒の言葉が心に染み付いた。何ともいえない人間臭さのある教育の様子が感じられた。生徒と先生が真摯に向き合った教育を実践している成果であろう。こうした、言葉や理屈では語れない部分も含めて教育であると思ったり、むしろそここそ教育の神髄があるのかもしれない。「岩手県立一戸高校・川村俊彦」

読者のページ

Reader's VIEW

Volume **6**

読者の先生方からのご意見を紹介します

幅広い進路実現を後押しする学校でありたい

12月号の「指導変革の軌跡」の北海道釧路江南高校の記事に、生徒が視野を広げ、生徒自身が目的意識を持つていて保護者に伝えていけば、地元から離れることについて保護者から了承を得られるとあり、素晴らしいと思った。本校は首都圏にあるが、生徒の中には大学・学部研究を通して、地方の国立大への志望を持つ者がいる。しかし、結果的に保護者の了承を得られない場合があり、生徒と保護者の目線をどう合わせていくかが課題の1つとなっている。「東京都・私立東京農業大学第一高校中等部・小堀健二」

生徒・保護者・教師が足並みをそろえる参考に

今年度3年生を担当し、生徒・保護者・担任がいかに同じ方向を向くかが重要だと感じた。場合によっては三者がばらばらになることがあるので、12月号の「生きたデータの徹底研究」の「もっと響く指導」のポイントと「生きたデータ」活用改訂案は、三者の足並みをそろえるための参考になる。後は、教員がいかに情熱を傾けられるかが重要だ。生徒からの話に反応するだけでなく、いかに生徒に情報提供できるか、教員の資質向上が問われるように感じている。「静岡県・沼津市立沼津高校・谷野公彦」

教師川柳

卒業へクラスのまとめを感じてる

埼玉県・氷川の中

『VIEW21』高校版はウェブサイトでもご覧いただけます！

本誌の最新号、及びバックナンバーは、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトで公開しております。誌面のPDFや「生きたデータの徹底研究」の図版もダウンロードできます。ぜひご利用ください。

詳しくは

VIEW21 高校版

検索

<http://berd.benesse.jp/magazine/kou/>



編集後記

◎今号の取材を通して感じたのは、教科外活動が、「軸」や「修正力」を育む上でも非常に重要な場であるということ。というのは、「軸」の形成・強化や「修正力」の向上には、失敗経験が必要不可欠であり、大いに失敗が出来る場が教科外活動だからです。そして、4つの事例から、教科外活動での失敗経験や成功体験、そしてそこで培われた考え方などが、学習面にも好影響を与えることが分かり、教科外活動の価値を再認識することが出来ました。(柏木)

VIEW21 2月号 Vol.6

2015年2月20日発行

発行人 山崎昌樹
 編集人 春名啓紀
 発行所 (株)ベネッセコーポレーション ベネッセ教育総合研究所
 印刷製本 凸版印刷(株)
 編集協力 (有)ペンタコ
 執筆協力 中丸 満、二宮良太、長谷川敦
 撮影協力 荒川 潤、川上一生、谷口 哲、福山 哲、ヤマグチイキ
 イラスト協力 カモ

VIEW21編集部
 〒163-0411 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビルディング14階

©Benesse Corporation 2015

VIEW21 2015 April 4月 Volume 1

次号は 4月7日発行(予定)
 『VIEW21』高校版は 年6回の発行です